

# アルコール問題への 取り組みと地域連携

東京精神保健福祉士協会

精神保健福祉士 岩谷美佳

(遠藤嗜癖問題相談室 きしろメンタルクリニック所属)

# 遠藤嗜癖問題相談室の実践

- 開設30年目、ソーシャルワーカーが開設したカウンセリングルーム、スタッフは精神保健福祉士（社会福祉士、公認心理師等）の資格を持つ

## 相談業務

- 相談内容：嗜癖問題（アルコール、ギャンブル、浪費、ネット、性依存）、夫婦関係（DVを含む）や家族関係の問題。不登校、引きこもりや暴力、虐待などの家族内の問題。
- 対象：問題を抱える当事者、家族
- 相談方法：個人・家族面接（対面、電話、Zoom）、心理教育、グループワーク、DVや性犯罪向け加害者教育プログラム

# 遠藤嗜癖問題相談室の実践

## 行政からの委託・派遣などによる業務

- こころの相談（男性相談・女性相談）
- 子育て支援事業（子ども家庭支援センター）母親サポートグループのファシリテーター
- 保健所、地域包括支援センター、嗜癖問題を持つ女性の自立訓練施設等で開催される、事例検討会のスーパーバイザー
- 従業員援助プログラム（EAP）契約プロバイダーとしての機能➡個別カウンセリングの実施

# 遠藤嗜癖問題相談室の実践

## 専門家向け研修会の派遣活動

- 福祉事務所地区担当員研修 生活保護担当ケースワーカー全国研修会
- こころの健康センター主催の依存症支援者研修会 久里浜医療センター主催アルコール依存症臨床医等研修 日本PSW協会主催の事例検討型研修等

## 研修会のテーマ

- 「依存症の理解と支援・社会資源」「多問題を抱える家族の理解と支援」「アディクションの背景にある生きづらさの理解」等



# 行政の「こころの相談」から見える アルコール問題

女性向けの相談。週1回、4枠（1回50分）の相談構造。

主訴は夫婦関係（DV含む）、親子関係の悩みが多い。

➡相談内容の中でアルコール問題がからむ相談が少なくない。

# 1 夫のアルコール問題の悩み。

# 2 夫婦関係に悩みを持ち、両親のアルコール問題の影響を受けている。

# 3 人間関係や就労へのつまづきからアルコール依存傾向となる。

➡丁寧に主訴を傾聴し、背景にあるアルコール問題からの影響にアプローチして、今の状況にどう向き合うか対応する。



# きしろメンタルクリニックの実践

- 川崎市多摩区にある精神科・心療内科のクリニック
- 発達障害に特化したショートケアの運営や、心理相談室を併設。精神保健福祉士、公認心理師などコメディカルスタッフが在籍。
- 通院者は川崎市多摩区、隣接する町田市、世田谷区など都内からの利用もある。
- 精神科医療機関、就労移行支援事業所など精神保健に関係する機関が多く、関係機関のネットワーク会議の開催も活発。



# きしろメンタルクリニックの実践

- 不眠、抑うつで受診につながるが、アルコール問題が背景にある。通院するなかでアルコール問題に気づき、親との共依存や自立のテーマが浮かび上がる。
- 10代の方で、学力低下、発達障害の診断の希望、親への暴力や不登校の問題で受診につながる。背景に親のアルコール問題がある。
- 両親との関係がうまく築けず単身で上京して就労するが、職場の人間関係で挫折し、アルコールに依存し始める。

# 相談の中から見えてくるもの

- アルコール問題を持つ親の中で成育し、自尊心の低下、偏りのある思考、自己表現の低下など様々な葛藤を抱える。結果、仕事と家庭のバランスが崩れたり、配偶者との関係や子育てにストレスが生じる。
- アルコール依存の夫の行動が気になり、なんとか行動を修正しようとして夫に巻き込まれてしまう。
- 家族関係や人間関係のしんどさから、対処行動としてアルコール依存に陥った経過がある。



# アルコール問題への取り組みと地域連携

## ▶ 早期発見

アルコール問題は、あらゆる相談支援の場面に必ず存在している。相談者の主訴に、アルコール問題が表面化しないことがよくある。支援者がアルコール問題を見逃さず、気づく事が重要。

## ▶ 支援につなぐ

アルコール問題がどの程度で、何を優先して支援していくか。医療の必要性の確認や、家族全体をアセスメントしていく。

## ▶ 支援の展開と継続

地域の支援者間で共通認識を持てる様に歩調を合わせる。関係者の連携が深まるツールとして事例検討会は有効。支援が途切れない様、関わりの継続性が重要。

# アルコール問題への取り組みと地域連携

## ソーシャルワーカーの職能団体の活動

日本精神保健福祉士協会/都道府県協会

日本社会福祉士会/都道府県協会

日本医療社会福祉協会/都道府県協会

日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会等

各々の職能団体は、地域の様々な支援者がアルコール問題に気づく視点を持てるよう、研修や事例検討会などで発信している。支援の様々な場面でアルコール問題を発見し、関わりを継続できる体制づくりを図っていく。